

# パラオ *PALAU* 北 *NORTH*

未開の北エリアを徹底リサーチ

# R018

パラオ最大の島、バベルダオブ島。

その北に広がる広大なリーフ。

そこには島は無く、パラオのダイビングの歴史においても、ほとんどポイント開拓がされずに残っていた未開のエリアでもある。

そのエリアのリサーチを続けるデイドリームパラオ。

今回はそのリサーチに同行、取材を行った。

デイドリームと言えば、南にペリリューステーションをオープンさせて、ペリリュースコーナーを超人気ポイントに仕立て上げた立役者。

そのデイドリームが、今度は北に標準を向けた！



Photo & Text - **TAKAJI OCHI**  
Special Thanks - **Day Dream Palau**  
Design - **Sana**

太平洋戦争の灯台跡から北のリーフを望む。美しい光景だ

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Web-lue 2010. Winter



Information Link  
<http://www.daydream.to/palau/>

click! 関連情報HPへ



# Go NORTH

## 北部を目指せ!

朝7時過ぎ、車にタンクやダイビング機材、カメラや食料を積み込んで、マラカル島にあるデイドリームパラオを出発する。目指すのは、パラオ最大の島、バベルダオブ島の最北端にある、ガラロン(アルコロン)州。

整備された舗装道路を移動していく。KB(コロール、バベルダオブ)ブリッジを越えると、道路は山間部やジャングルの中を、北へ北へと続いている。時折、緑に覆われた島の先に美しい青色をたたえるパラオの海が広がる。

いつもと違うパラオの表情を見られるだけでも、気分は高揚していく。ロックアイランドをボートで駆け抜けるのも気持ちいいけど、車での旅も、なかなか悪くない。もちろんどちらも白い雲と青い空が必須アイテムではあるのだけど。



03/ ここが、ガラロン州の入り口だ  
02/ お店の前で可愛い子犬に出あった  
03/ ストーンモノリスの石碑が並ぶ、バドルルアウ遺跡  
04/ 途中、車を止めて、記念撮影

運転するのは、デイドリームパラオのマネージャー、秋野大(あきのひろし)さん。彼とは、ペリリューステーションオープン以前から、継続取材を一緒に行ってきた。「今度は北に場所をかえて、リサーチから取材して欲しい」という依頼から今回の取材が行われることになった。

車での旅といっても、目的地となるオレイの港までは、1時間30分もあれば到着する。途中、道の脇に車を止めて、海の広がる風景を撮影したり、村のローカルマーケットに立ち寄りしたりしたとしても、2時間もかからない。朝9時に予定していた、ボートの出港時間丁度くらいには、港に到着している。

港では、ボートオペレーター役のリーメント、その奥さんで、エビルチャネルの環境保護活動を行っている、エビルソサエティーのチェアパーソン、アンさんとその娘のキミエちゃんが出迎えてくれた。

空は晴れ渡り、風も無くて、絶好のダイビング日和だ。



05/ 青い海と空に、気分も高揚。思わずジャンプ!  
06/ バドルルアウ遺跡での眺めも美しい  
07/ 現地の協力者、リーマン一家  
08/ 隠れ家的なノースビーチリゾート





01/青い海が広がる  
02/虹を見ながら  
03/ローカルフードが美味しい船上でのランチ

## The reason why they research in **NORTH**

### 北のリサーチを行う理由

デイドリームが、北のリサーチを行っているのには、様々な理由があるのだが、まず一つが、2010年初旬から、オレイの港からほど近い、エビルチャネルへのダイビングが解禁になりそうなこと。

サンゴが美しいこともあり、法律で立ち入り禁止の保護区に指定されていた。アンさんは、その美しいサンゴを観光客に見てもらおうことで、観光環境教育的なものが行っていければと考え現在も活動している。

取材時、スノーケルだけだったが、少しその中をリサーチさせてもらった。驚いたのは、満潮でも水深3mにも満たない浅瀬に、巨大なテーブルサンゴがいくつも生息していたことだ。環境の変化に弱く、再生スピードの遅い、テーブルサンゴ。パラオでは、年間5センチ程の成長をすと考えられている。

この水深であれば、1998年に発生した温暖化による、水温上昇によって、白化現象が起きていても不思議ではない。現に、今は回復しているとはいっても、パラオの多くのサンゴがその当時に死滅した。

それがどうだ、ここのテーブルサンゴの巨大さは！深度が10数メートルあるのであればともかく、こんな浅い場所に、4m以上はあるテーブルサンゴがあちこちで成長を続けていた。

「ここなら、サンゴも美しいし、ゲストとポイントリサーチしながら潜っても楽しそうです」と可能性を語る秋野さん。僕自身も、パラオでも有数のサンゴのリーフが広がっていると感じた。

もう一つの理由は、カヤンゲルやユーカクエリアを含む、パラオ北のツアーを行う上で、その間に広がる北のリーフでのポイント開発は、必要かつ重要な要素になるわけだ。



04/サンゴの成長は目覚ましい  
05/サンケンブリッジ  
06/2010年1月から解禁になったエビルチャネルのサンゴ



# R018



砂地のオオメカマスの群れに、マンタが急接近!

未開の北エリアを徹底リサーチ

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製・二次使用を禁じます

## パラオ 北 R018

PALAU NORTH  
Web-lue 2010. Winter



Information Link  
<http://www.daydream.to/palau>

←click! 関連情報HPへ



01



This is what I saw at **R018**



04/ ヨスジフエダイ、ノコギリダイの群れに、ウメイロモドキの群れが重なる  
05/ 透明度の高い海中でマンタとランデブー  
06/ 深場ではシルバーチップにも遭遇した  
07/ マンタとの遭遇率も高かった

## R018で見たもの

北のリーフは、パラオの伝説には、夫に何度も殺されそうになった妻が、その度に海に飛び込んで難を逃れ、母親からももらった魔法の灰を海に投げることで、海底を浮上させて浮き上がってきた浅瀬が広がってきたという伝承がある。

その伝承の通り、島はまったくなく、浅いリーフが環礁となっており、内海を取り囲んでいる。このエリアで、ダイビングポイントとしての開発が行われてこなかった理由の一つがここにある。「ヤマだてする目印が無かったから、同じ場所に潜るのが困難だったのでは無いでしょうか」と秋野さんは推測する。

「しかし、今ではGPSがある」ダイビングで、このGPSを使うようになったことで、ヤマだてが難しい、北のリーフへ意識が向き始めたのも、事実である。

そして、秋野さんが、今回一番最初にリサーチ取材エリアとして選んだのがこのR018。リサーチ中なので、正確な位置は、まだ伏せておくことにする。今回、GPSを駆使して、R018のリサーチ取材を行った。

01/ 砂地に群れるオオメカマス

02/ 海底には巨大なマダラエイの姿が

03/ 砂紋が美しかった砂地には、オオメカマスが群れる



02

03

潮の変わり目にクマザサハナムロが捕食を始めた



潮の変わり目にクマザサハナムロが捕食を始めた

「パラオ (PALAU)、北 (NORTH)、R018」暗号のようなこのタイトルのR018が、今回13本も潜り込んだポイントの名前だ。RはリサーチのR、018は、デイドリームがこの北のリーフでリサーチを行った、18番目のポイントという意味。2009年12月の取材時点で、すでにR046までのリサーチが行われていた。もちろん、この番号さえつけられなかった、ポイントもあるし、ナンバーをつけても、すでにまったくポイント開拓の視野から外れてしまったものもある。

R018-400、R018-700、リサーチ中、そう呼んだのは、GPSでチェックしたポイントから、400m、700m移動した位置を意味した。

今回、このポイントで見たものは、チャンネルへと続く広大な砂地。その上には、オオメカマスの群れ、周囲の根には、ヨスジフエダイやノコギリダイが群れていた。

潮のタイミングでは、毎回マンタを目撃したし、パラオではそれほど個体数の多くないブラックマンタも2日間続けて目撃した。深場では、シルバーチップシャークが目撃されたこともあるし、砂地には、マダラエイやツカエイなど。ブルーウォーターにはマダラトビエが通過していく。



01

しかし、一番凄いのは、バラクーダの群れだ。この時、潜っている限りでは、かなり大きな群れが3つのグループに分かれていた。これがまとまったら、一体どんな規模の群れになるのか。

そして、砂地に群れるオオメカマスの群れとマンタ、ヨスジフェダイの群れとマンタ、バラクーダの群れとマンタなどが見れたり、撮影できるチャンスがあった。今回撮影できたのは、オオメカマスとマンタの絡みだけだけど。「もっと、潜り込めば、きっとクリーニングステーションも見つかると思います」と秋野さん。

それにしても、広大なリーフだ。まだまだ開発のための潜り込みが必要なエリアではあるが、今までのパラオとは違う表情を我々に見せてくれるようになるに違いない。

「今回の取材で、R018を潜り込んで、やっとポイントとして確立できそうなメドがつかえました。一年半、スタッフと一緒にやってきたリサーチの成果を絶対に作りたい」と



02

秋野さんは語った。

近い将来、また、ペリリューがメジャーになったように、この北のリーフにも、多くのダイバーたちが訪れるようになるのだろうか。

## R018で見たもの

# This is what I saw at R018

01/渦を巻くブラックフィンバラクーダ

02/こんな群れを、3つも目撃。これが一つになったら、どんなことに…

03/パラオでのポイントリサーチを積極的に行い、様々なニューポイントを開発してきたデイドリームパラオ。北のリサーチに期待がかかる

[Website] <http://www.daydream.to/palau>



03

